

コシカギク

Matricaria matricarioides

キク科



コシカギク

名前の由来

「シカギク(鹿菊)」と似ていて小さいから「コシカギク(小鹿菊)」。シカギク(鹿菊)の名の由来は、細かく切れ込んだ葉が鹿の角に似ていることから。別名はオロシヤギクで、オロシヤとはロシアのこと。漢字名：小鹿菊

形態的特徴

高さ10cm～30cmになる。図鑑によって「無毛である」「全体に毛がある」と記述が分かれる。茎はよく枝分かれする。葉は細かく羽状に分かれ(2回羽状に全裂)、分かれた部分の幅は0.3～0.5mmと非常に細い。葉のつけ根は茎を抱く。

頭花は黄緑色で舌状花はなく、筒状花のみが集まって径6～9mmの球状になる。花はリンゴのような匂いがする。

類似種と見分け方

シカギク、イヌカミツレ。

コシカギク、シカギク、イヌカミツレとも葉が細かく分かれる点は似ているが、シカギク、イヌカミツレは高さ50～60cmに達すること、花には白い花びらがあること(正確には白い花びらをつけた舌状花があること)からコシカギクと区別できる。また、コシカギクとイヌカミツレは道端や

荒地で生育するが、シカギクは一般に海岸の砂地が主な生育地である。



コシカギク。背が低く花に花びらが無い



イヌカミツレ。背が高く花には白い花びらがつく

生活サイクル

| | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 |
|-----|----|----|----|----|----|----|-----|-----|-----|----|----|----|
| 開花期 | | | ■ | | | | | | | | | |
| 結実期 | | | ■ | | | | | | | | | |

魚類

底生動物

両生類
爬虫類

トンボ

チョウ

樹木

(在来種)
草花

(外来種)
草花

哺乳類

(水辺)
鳥類

(草原・樹林)
ワシ・タカ

生育環境・分布

道端、荒地、海岸の砂地。

分布：国外分布は、北アメリカ北西部、東アジア、ヨーロッパ。北半球の寒地。北欧諸国では都市の路傍にもっとも普通に見られる。

国内分布は、北海道には普通に見られる。その他は本州・四国の開港地にまれに帰化している。

北海道内分布は全道。道端や荒地、海岸の砂地に見られる。十勝地方では、道端や荒地などに普通に見られる。踏みつけに強く、しばしば小さな群生地をつくる。



コシカギク。小さな群落が見られた

生活史

開花時期：6～10月

開花までの年数：1年以内

寿命：1年草。

他生物との関わり

花に昆虫が訪れる。

興味深い話

■コシカギクの花は一見花びらがなく、茎の先端に直径6～9mmの丸みを帯びた黄緑色の物体がついているだけのように見える。これはコシカギクの花には花びらをつけた舌状花がなく、花びらが筒状になって雌しべと雄しべをつつんでいる筒状花だけが集まっているからである。前述の“丸みを帯びた黄緑色の物体”をよく見ると、筒状花がぎっしりつまっているのがわかる。

■コシカギクの生えているところを歩くと、足元からリンゴの香りがただよう（コシカギクの花の匂い）。

■ハーブのカモミール（和名はカミツレ）も同じキク科コシカギク属であり、匂いが似ている。樺太やシベリアではカモミール同様にコシカギクも薬用として使われている。

■カモミールは「母の薬草」といわれ、女性のホルモンバランスが崩れたときの症状をはじめ、冷えや頭痛、鎮痛、発汗、胃腸薬、効炎効果、不眠症、下痢、胆石、結石などあらゆる症状によいとされ、ヨーロッパではカモミールのハーブティーが民間薬として愛されている。また、体を温めたり、皮膚をしっとりさせる効果もあるため、入浴剤としても利用されている。

■コシカギクの花を乾燥させ、熱湯を注ぐと風邪薬になる。



コシカギク

魚類

底生動物

両生類
爬虫類

トンボ

チョウ

樹木

(在来種)
草花

(外来種)
草花

哺乳類

(鳥辺)
鳥類

(葦原・タカ)
鳥類
樹林

参考文献

「原色日本帰化植物図鑑」長田武正 保育社 1976

「北海道帰化植物便覧」五十嵐博 北海道野生植物研究所 2001

「北海道植物図譜」滝田謙讓 自費出版 2001

「北海道の花」鯨島淳一郎・辻井達一・梅沢俊 北海道大学図書刊行会 1993

「日本植物誌」大井次三郎 至文堂 1965

「日本の野生植物-草本Ⅲ-合弁花類」佐竹義輔・大井次三郎他3名 平凡社 1981

『フラワーショップ花友』（花友通信）

<http://www.fs-hanatomo.co.jp>